

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372401028		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホーム 慈幸苑		
所在地	熊本県玉名市横島町横島2493番地1		
自己評価作成日	令和2年9月21日	評価結果市町村受理日	令和2年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和2年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様のお一人お一人の残された能力を十分に発揮していただき、生き甲斐を感じ穏やかに暮らしていただくことを第一に、職員一同理念に基づき支援を行っている。
個々に関わりを持ち“その人らしさ”を大切に、心に寄り添い安心して心地よく過ごして頂けるホーム作りに努めている。
家族様の面会も多く、来苑時には他入居者の方々へもお声をかけられ職員と共に入居者様の笑顔・楽しみ事を支えて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年度はコロナ感染症の影響により、外出や行事などに制約があったものの、ホーム内で出来る事で入居者の喜びや楽しみごとを引き出すように工夫している。開設当時から職員による手作り料理が提供され、入居者も食に関わる機会を持ち、畑仕事や収穫、豆むき隊と称した入居者の出番など持てる能力を生かしながら、一人ひとりに役割を担ってもらおうという理念そのものに通じている。コロナ終息後はこれまでできなかった買い物や、外出、家族との時間合などを入居者や職員も心待ちにしており、実現できる日が待たれる。離職のない馴染みの職員による支援は、何よりの信頼や安心に繋がっており、今後も法人との連携を図りながら、地域の中で新たな年月を重ね活躍していける事を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日目にする生活日誌への貼付。 玄関・事務所内にも掲示し、職員全員に周知徹底し実践に繋げている。	理念には一人ひとりの残された能力を生かしながら、個々の役割を担ってもらい、安心のできる居場所作りの援助を謳っている。法人の安易に薬やオムツに頼らない基本姿勢を継承し、家庭生活の延長として、日中活動と夜間入浴を取り入れ、100歳になっても自立歩行や自力摂取、布パンツでの生活に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の商店への買い物へ同行し、時に知人の方と会い会話、交流を支援している。	コロナ感染症により予定されていた行事が中止となったものの、蔓延以前には地域商店での買い物や、法人施設での行事に参加して地域交流の機会を持っている。職員による認知症の啓発活動やナイスライの受け入れ、地域からの相談事に気軽に応じる等、地域の一員として持てる力を還元している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の地元の知人から介護の相談を受けたり対応を教えたりして、認知症理解や支援方法をお伝えしている。 キャラバンメイトとしての活動を行い貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催で苑だよりを利用し日々の暮らしぶりをお伝えしており、多くのご意見をいただき運営に活かしている。	コロナ禍以前には2か月ごとの定期開催が実現している。毎年初回の会議にはホームを会場として入居者の日々の暮らしぶりを見てもらい、手作りおやつを囲んで茶話会形式で開催するなど工夫してる。現在は通常開催となっているが、園だよりや各資料等を添付し、書類審議としていた時期もある。	行政より議事録の記入について、研修欄にはあらたまった会議ばかりでなく、小人数での話し合いなども記載したらどうかなどの意見があがっている。今後も参加者の声を収集し、ホーム運営に反映されることが期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加頂き、ご利用者の様子を相談・助言を頂いている。	行政担当者が毎回運営推進会議に同席しており、ホームの現状を共有して適切な意見や提案を得ている。行政からの通達は法人を介して届き、感染症対策や研修案内などに随時対応し、必要な研修には率先して参加して、復講にて全職員が共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の“鍵なし・眠剤なし・抑制なし”の方針に基づき、勉強会への参加、職員間の意見交換を行い身体拘束のない支援ができています。	運営推進会議を通し、身体拘束適正化委員会を設置して、外部研修などの報告後に参加者から研修の成果や活用方法について意見が出ている。センサーマットなどを使用する方はおられないが、安全面から玄関に“鈴”を取り付け、外出傾向にある入居者などへ対応している。眠剤やオムツに頼らない生活を継続し、スピーチロックの弊害についても時間を要する場合には、“ちょっと待ってください！”の後に“お待たせしました！”の一言を発するように申し合わせている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会や外部研修に参加している。 また、職員間の情報共有で虐待防止の体制ができています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度利用の利用者との関わりや勉強会を通し、必要な支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書他書類に目を通して頂き説明、納得して頂いている。不明な点はいつでも問い合わせされるよう伝えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催時、面会の折にご利用者の状況を伝え、ご家族の意見や要望を聞く場面を設けている。 また、運営推進会議へも家族代表の参加もあり、外部へ表せる機会がある。	運営推進会議には時に入居者も参加し、戦争体験やホームでの日常を語られるなど、意見を発する機会を持つよう配慮している。家族会や運営推進会議、普段の面会など家族との交流の機会は多く、入居者の現状とともに共有して意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や日々の業務の中で、気づきの部分の提案、意見をもらい運営に反映させている。	毎月のホーム会議ではケア向上や業務改善の話にとどまらず、職員の心配事や相談ごとに応じて、新たに退職した家族に代わって、新たに入職した若い職員など働きやすい環境であることが窺える。夜間入浴の専任者により、自宅と変わらない生活が継続されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休の取得、有給休暇の取得で、勤務交代も職員間でできるようにしており、職場環境向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人勉強会への参加、外部研修へ参加してもらっている。また、自己評価を行っており介護技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	支部連絡協議会へ参加し意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行い、ご入所後も本人様の言葉に耳を傾けて思いを十分に受け止め、安心して暮らして頂けるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入所の相談の折、ご家族の思いや要望をお伺いしている。また、面会の折にも日々の様子をお伝えしている。ご家族の不安事等伺う関係ができています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いを十分に受け止めている。対応困難な時は他サービス事業所の利用等アドバイスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の意思をたずねながら支え合い、身体レベルに合わせた介助を行っている。 生活の中で出来たことを共に喜び、生きがいに繋がげながら馴染みの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様・ご家族様・職員は大きな家族と捉えている。面会の折には努めてゆっくり時間を持ち本人様の様子を伝え、家族の相談や不安等もお聞きするように努め、本人様・ご家族様との話題の提供を行い支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人のデイ利用者の利用日に合わせ外出支援、 地元商店への買い物・外出等支援、法人自動販売機まで出かけて飲料を選ぶ楽しみを作っている。	入居者にとって入居前の生活とともに、ホームでの日々も馴染みの暮らしとなり、リビングからの変らぬ景色や野菜の下ごしらえにはテーブルを囲んで一斉にタケノコや、豆の皮むきに腕を振るう等これまでの経験が生かされている。居室環境も家族の協力により、自宅に近い雰囲気ですぐ過ごすことが出来ています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	困いの場では席が決まっているためか個々の席い案内される方、席を譲ったりされる方、お互いに気遣われるあたたかな光景が見られている。食事作りも役割分担しながら協力されている姿が多く見られている。他にもタオルたたみも協力して行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた後も訪問し、会話の時間を持つように努めている。また、退所後の来苑あるときには利用者様を中心とし、家族との会話の時間を持ち、サポートできるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様が希望する生活、好まれる暮らしのスタイルを会話や行動から気持ちを把握し、スタッフ間でも情報共有し入居者様の気持ちに沿える支援を行っている。	入居者の意向は普段の会話や関わりから引き出し、ケア会議で検討しながらプランにつないでいる。プランのモットーは、入居者が好まれる生活だとして、家族からの情報を得ながら、本人・本位となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問で利用者様の生活歴を把握し、馴染みの暮らし方などの情報を頂き安心できる生活支援ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の日々の暮らしを詳細に記録し生活リズムを把握して、スタッフ間でも情報共有しながら現状の生活支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間での状況把握を行いながら必要時にはホーム会議を実施し、入居者様のケア改善に取り組んでいる。また、家族面会時にも現状とケア改善への取り組みへの説明を行っている。 遠方の家族へも定期的に電話や手紙で報告している。	プランには「ホームで役立つ事をしながら楽しく過ごしていきたい」など本人の気持ちをそのまま明記し、知識や経験が発揮できる内容をあげている。プランの話し合いや説明においては、全家族から了承が得られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤・入浴時・夜間帯などの様子をケース記録に詳細に残し、情報共有できるようにして、日々のケアに活かせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外泊、外出などの申し出にも対応し、その時々を大事にする支援を行っている。また、入居者様の体調等をみながら外出行事など法人の協力を得ながら対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元小中学生との交流もあり、当施設の行事には地域の各団体のボランティア参加や毎月のボランティアとの交流も図れており豊かな暮らし支援に繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携も確立しており、月2回の嘱託医の回診もある。急変時もその都度対応できる体制がある。専門医の受信が必要な場合、ご家族の都合がつかないときは苑にて対応できる体制を整っている。	本人・家族の了承のもと、嘱託医による月2回の回診や専門医への受診は、基本的に家族による対応としているが、ホームでも柔軟に応じながら入居者の健康を管理している。職員はバイタルチェックをはじめ、月1回の体重測定、食欲や排泄など日頃の関わりから異常の早期発見に努め、気になることは早めに医師への相談や家族への報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である特別養護老人ホームの看護師による医療連携が整っており、日常の変化や異常時に素早い対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった場合、認知症の進行するケースがあり、ご本人の気持ち、ご家族の気持ちを踏まえ職員が病院へ出向き馴染みの顔を見せることもある。病院関係者と情報交換を密に行い、早期退院へ繋がるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り文章にご記入頂き、ご本人の状況に応じてご家族と話し合いを持ちながらご本人・ご家族が望まれる最期を迎えられるように取り組んでいる。ご家族にとり納得した最期を迎えたと感謝の言葉を頂いた。	入居時にホームの看取りへの取組を説明し、その時点での家族の意向を確認し、その後も必要に応じて話し合いの機会を持っている。この夏、お一人の方の看取りを支援しており、本人を偲びながら振り返りの時間がもたれている。管理者をはじめ職員は、本人・家族の望まれる最終の支援に、今後も医師と連携を図りながら努めていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況に応じ連絡・報告の徹底ができており、医療連携体制がある。 勉強会において急変時の対応について習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、避難訓練等も消防署立ち会いのもと年2回行っている。 備蓄品についても面会時に話題にしており、ご家族の安心に繋がっている。	今年度は5月に法人全体で特養施設の後、ホームの避難訓練を日中想定で行っており、11月に夜間想定訓練が予定されている。備蓄品については、法人やホームでも確保している。訓練や備蓄品については、家族にも報告を行うことで安心や信頼、意見を受ける機会としている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様がスムーズに受け入れることができる声掛けを見出し、人生の先輩であることを念頭におくこと、統一した対応を行うことを徹底し人格を尊重した対応を行っている。	入居者は人生の先輩であることを心に置き、声掛けや本人の意向に沿った支援などを職員間で共有し、徹底に努めている。呼称は苗字や下の名など反応などを考慮し状況に応じて対応している。身だしなみも大切な尊厳の一つであり、季節に応じた衣類の調整や、外出を兼ねて法人特養での訪問カット施術に出かけている。個人情報使用については、家族の承諾を得ており、職員の守秘義務の徹底にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で食事の献立「お昼は何にしましょうか」等それぞれ伺うことにより、希望を発したりされている。 それぞれに関わりを持ちながら思いを発し、自己決定出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お1人お1人の体調をみながら、ご本人のペースに合わせた暮らしができています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節、気候に合わせた衣類の着用ができています。 外出や行事の際はおしゃれも支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	苑の菜園で収穫した野菜を用い、お好みの調理法を伺いながら他者と協力し一品を作り上げて頂く取り組みが定着しています。 台所の様子を見ながら率先して台拭き・配膳・食事が終われば下膳と、一連の作業を他者、また職員と協力し行われている。	献立はその日の朝、お茶を飲みながら入居者と一緒に決定している。開設時から職員による手作りの料理は、季節感や盛り付けにも工夫し、入居者の楽しみの一つになっており、家族からも感謝が寄せられている。食材は地域スーパーを中心に購入に出かける他、差し入れや菜園の野菜を活用している。入居者もつぎ分けや得意の味噌炒め料理には腕を振るわれるようである。また、食材の下ごしらえなど出来る事で食への関わりを支援しており、広報誌などでも紹介している。	職員と同じものを摂ることは何よりも楽しい食事時間と思われる。また、運営推進会議でおやつ作りが行われており、今後も継続した取組に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通し、食事量・水分量を確保し、その方のペースに合わせた支援をしている。 ご家族に協力して頂き、嗜好品の提供等ご本人の習慣にも配慮し満足に繋がるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きの声掛けをすることで、口腔内の清潔を保っている。 自ら行える方、介助要する方とあるが、個々に関わり自ら出来る方も不十分な時はコミュニケーションを取り洗浄の支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつ誘導表で個々の排せつパターンを把握し、尿サインを見逃さずプライバシーに配慮してトイレでの排せつが気持ちよく済まれるよう支援している。	把握した排泄パターンを職員間で共有し、個々に応じた排泄支援に努めている。パットの使い分けを工夫しながら、日中はトイレでの排泄支援に取り組み、夜間のみポータブルトイレを使用される方もおられる。トイレやポータブルトイレは気持ちよく使用できるよう、清潔に管理している。100歳になられても、パットを併用しながら布パンツで過ごされるなど、「オムツゼロ」に法人全体で取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	海藻、きのこ類や野菜を多く取り入れた食事や、きな粉牛乳の提供を行い、さらに廊下での歩行やストレッチ体操を行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月～土の夜間入浴を行っており、日中での入浴へも対応している。 好みの温度をお聞きし、調節しながら各々のペースに合わせ入浴を楽しんで頂いている。	専任の入浴支援者を中心に、月曜から土曜まで夜間入浴が行われている。また、職員も皮膚の状態などを確認するために入浴介助に入っている。個浴のため一人ひとりに応じた湯加減の調整や入浴時間などに配慮しながら、ゆっくりと入ってもらえるようにしている。拒否がある場合も、本人の納得のもと入浴してもらえよう、職員は声掛けを工夫しながら誘導している。柚子や菖蒲を使った季節湯は毎年実施しており、菖蒲を頭に巻き湯船に入るなど、昔ながらの取組も継続されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間入浴で夜間の安眠に繋がっている。リビングに和室のコーナーもあり、障子を閉めることで独立した空間となり休息の場として利用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の確認、変更の場合は記録に残し、また口頭でも伝え情報共有している。 服用の際は、氏名確認を重ねて行い誤薬防止に努めている。服用による症状の変化等確認し記録にも残している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日記記入、新聞購読、テレビ視聴、読書と習慣とされてこられたことを行って頂き、楽しく過ごして頂く支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調、天候に合わせ外出を行っている。季節に合わせ花見、散歩、花火大会と地域の方々、家族の方々に協力頂き外出支援を行っている。	ホーム周辺の立地を生かし、コロナ禍の中でも敷地内や近隣の散歩を取り入れながら、可能な限り外気に触れる機会を持っている。また、初夏には車窓ドライブとして、あじさい見学に出かけている。自宅への帰省や家族との外出など、控えなければいけない現状であり、安全面に配慮しながら出来る外出支援に努めたいとしている。	今後もビデオや雑誌の紹介など入居者が外出気分を味わえるような支援も有効かと思われる。取組に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持されておられる方がおり、購入されたいものあらわれる場合はスタッフへ依頼あり、共に買い物へ出かけ欲しい物の買い物ができておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	苑だより等をお送りする場合にお声掛けをさせていただき、手紙を書かれる支援をしている。 お電話の際は了解を得て対応を行い、内容がきちんと伝わるように支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事ごとに写真等の掲示物を設け、ご利用者の楽しみとなっている。 夏場等の日差しの強い時季には緑カーテン(ゴーヤ、朝顔)を設け、過ごしやすい空間作りに努めている。	有明海や特産のミカン畑を眺められるリビングホールでは、賑やかな歌声や食事中は穏やかな語らい、食後はうたた寝されるなど入居者が自然体で過ごされる光景が印象的である。コロナの終息を願ったアマビエの壁面や日常を写した写真の掲示は季節が一目瞭然であり、グリーンピースむきの様子は「豆むき隊」と紹介されるなど、ネーミングにも職員の一工夫が感じられる。職員の一人ひとりに応じた声掛けや支援も、居心地の良さにつながっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にてソファー席、食席、和室を利用しそれぞれ思い思いに過ごして頂いている。 会話がどうしても難しい場合は、スタッフが仲介し心おきなく楽しく過ごして頂けるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込みや写真を飾られるなど、ご本人やご家族様の思いに添うことができるよう努めている。 また、家具の位置変更を行うなど心地よく過ごして頂く支援を行っている。	どの部屋も自然を目の当たりにしながら過ごせる環境であり、入居者にとって居心地よく過ごせる要因につながっている。鏡台(姿見)の持ち込みや整理ダンスの引き出しに、しわが寄らないようズボンを挟み下げおられるなど、習慣が継続されている光景も見られた。また、ベッドだけでなくいつでもゴロンと休憩できるよう、畳一枚を家族が持参されているところもある。コロナ禍の中、以前のように家族による居室の環境整備は難しい分、職員は必要な品など注意を払っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札、脱衣所、お手洗いの表札など目印を活用し、スムーズな移動の支援を行っている。		